



セネガルの民族語のひとつであるウォロフ語で「Bokk」は仲間、「Jambaar」は頑張っている人のことを指しています。

アフリカと日本の距離を超え、同じ意志を持ち目標に向かって頑張る仲間たちの繋がりが広がっていくこと、そして Bokk Jambaar はその皆の頑張りを一つの大きな力にしていこうと考えています。

No. 2 NGO Bokk Jambaar ニュースレター

BAOBAB

エクスプレス



2015年6月発行

NGO “Bokk Jambaar”を設立してからようやく2年が経過しました。この2年間は、とにかく「やれることをやる」ということを目標に活動してきました。日本では、主にイベントに参加してセネガル雑貨やセネガル料理を販売し、そこで得た収益をセネガルに送り、現地での活動費に充てています。2014年度は、これまでやってきた若者の活動の支援だけでなく、村落部の学校、診療所の支援にも取り組みました。私たちの団体には駐在員はいませんが、昨年末メンバーの一人がセネガルを訪問して、現地での活動の成果を確認してきたところ、現地の人々は大変喜んでおられたそうです。このように活動を続けることができるのも皆さまのご支援があってこそそのことであり、私たちからも皆さまに感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

またセネガルの人々からは、支援を受けられるのはありがたいことだが、必ずセネガルに来てほしいということを言われました。どんな人たちがやっているのか、どんな目的があるのかなどなど、顔の見える関係の中でなければ、私たちの活動も受け入れるのは難しいということです。お金さえ出してもらえればそれでいい、という訳ではなく、やはり人と人としての繋がりを確認できることが、活動を続けていくうえでは重要なんだということを改めて感じました。

今年は1月に神戸市議員の山下てんせいさんを顧問に迎え、新たな一年をスタートしました。行政の視点から国際協力に関する意見やアドバイスをいただいています。さてこれからどんなことを実現していけるのか、夢も膨らみますが、とにかく今年度もまた、元気よく、じゃんばって(頑張って)いきたいと思っています。

Bokk Jambaar (ボック・ジャンバル＝“頑張る仲間”の意)は、セネガル人と日本人との交流を通じて、一人一人の持つ可能性を育み、セネガルと日本の希望ある未来と元気な社会づくりを目指しています。

【日本での活動】

2014.5.18 3NPO合同チャリティーパーティー

[会場] 神戸北野

NPO ファミリー・アンド・フレンズ・プロジェクト、
NPO ピース・アンド・ネチャー、そしてわれわれ
NGO Bokk Jambaarの3団体で合同チャリティー
パーティーを開催しました。参加者は50名ほどで、
各自が食べ物・飲み物を持ちより、みんなでシェア。



ホテルのビュッフェランチに負けないぐらいの品ぞろえでした。またじゃんけん
大会やクイズ、Flashback Bandによる音楽の演奏もあり、参加者の方々の笑顔
に包まれた一日を過ごすことができました。

2014.10.12 神戸グローバルチャリティフェスティバル

[会場] 神戸三宮 聖ミカエル国際学校



神戸在住外国人と日本人による国際チャリティイベ
ントです。30年以上続いているこのイベントは、子ども
から大人まで楽しめるプログラムが盛りだくさん。
また来場される方々の国籍もさまざまで、会場では
いろんな言語が飛び交いますが、楽しいと感じることは
みんな同じですね。私たちは今年もセネガル料理
とセネガル雑貨の販売をさせていただきました。

2014.11.01 三木金物まつり

[会場] 兵庫県三木市

三木国際交流協会さまのご厚意により、三木市のビック
イベント金物まつりに参加させていただきました。2014年は
2日間で13万6千人もの来場者があり、私たちはセネガル雑
貨を販売しましたが、たくさんの方々にお立ち寄りいただき
ました。



Bokk Jambaar では、活動を応援していただける方を募集しています。

1. Bokk Jambaar の会員として参加する
賛助会員 年間費 3,000 円
ニュースレターや活動報告をお届けいたします。
本 会 員 年間費 5,000 円
ニュースレターをお送りするとともに、総会や活動にもご参加いただけ
ます。
2. 寄付をして応援する
下記口座までお振り込みください。連絡先を教えてくださいましたら、活
動報告をさせていただきます。
3. ボランティアとして応援する
Bokk Jambaar が参加・主催するイベントなどにてお手伝いをしていただ
ける方を募集しております。下記連絡先までご連絡ください。

振込口座

三井住友銀行 千林支店

普通 1745982

ボックジャンパール 代表 福嶋香織(ふくしま かおり)

連絡先

Bokk Jambaar 事務局

〒535-0021 大阪府大阪市旭区新森4-3-12-504

電話: 080-8522-8412(代表 福嶋)

Email: contact@bokk-jambaar.orgHP: <http://www.bokk-jambaar.org>

Bokk Jambaar スタッフ紹介

①名前 ②セネガル名 ③今の職業 ④セネガルで発見した自分のあらたな一面

⑤セネガル人のここがスゴイ！

- ①福嶋香織
- ②Nogaye Mbaye (ノガイ インバイ)
- ③NPO職員(HIV陽性者支援)、訪問看護師

④自虐ネタもいける
⑤老人が道路を横断しようとするとき、手をひき一緒に道を渡る若者の姿は珍しくなく、このようにみんなが老人を大切にしているところ。ほのぼのします。



- ①藤岡 美保子
- ②Aminata Dia(アミナタ ジャ)
- ③不動産業

④昔はけっこう潔癖症だと思っていたけれど、ゴミと砂にまみれてもどこでも生きていけるんだという一面を発見しました。
⑤小さな水筒と杖だけで家畜と何ヶ月もかけて何百キロも歩いて遊牧できる体力！



- ①内山 光晴
- ②Atouman Ndiaye(アトウマン ンジャイ)
- ③JICA 四国支部 市民参加協力調整員
- ④筋トレ好き、馬に似ている(ロバやキリンにも似ている)、家に勉強用の机と椅子がないと落ち着かない、蚊帳の中に入ると落ち着く

⑤喧嘩しても、次の日にはケロッとしている、自分の飼っている牛が逃げた時に足跡を辿っていける(足跡はほとんど見えない)



- ①深谷 結
- ②Bineta Badji(ピンタ バッジ)
- ③小学校の先生

④一円単位まで値切るケちな自分。
⑤初対面のお客さんに、ご飯だけでなく昼寝の場所まで提供してくれること！



- ①土久岡 真美
- ②Mami Mbengue(マミ ンベング)
- ③大学事務員
- ④自分は人見知りだと勘違いしていたこと、どこでも何時間も寝れること、ゆっくりした時間の流れが好きだということ、チェブジェンがとても好きということ

⑤瞳が本当にキレイ、どんな些細なことでも本気になるって討論できること、男性は筋トレに時間を惜しまない、女性は服にお金を惜しまない。



普段やっていることはバラバラ、住む場所もバラバラですが、Bokk Jambaarの名のもと、いつも心は一つです。

2015.02.07-08 大阪ワンワールドフェスティバル

[会場] 大阪 関西テレビ、北区民センター、扇町公園



私たちは活動紹介ブースで物品販売、そして民族料理模擬店ではヤッサプレ(鶏煮込み料理)、ファタヤ(揚げ餃子)、ピサップ(ハイビスカス)ジュース、バオバブジュースを販売しました。関西最大の国際協力イベントということもあって、たくさんの方々にお越しいただき、セネガルのことや私たちの活動についても、興味深く話を聞いていただきました。



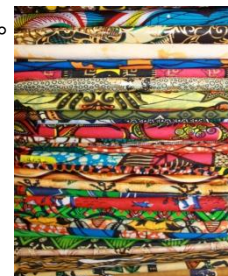
大人気アツアツのファタヤ



2014.03.15 KOBE 国際交流フェア

[会場] ハーバーランドセンタービル スペースシアター

KOBE 国際交流フェアでは音楽やダンスなどのステージが見ものです。フィナーレを飾るのはサンバのダンスチーム。最後は来場者もステージに上がり、サンバのリズムに合わせてみんな楽しそうに踊っていました。私たちはそのステージの真前にブースを出しセネガル雑貨の販売をしましたが、たくさんの方々にお立ち寄りいただきました。



色あざやかなアフリカ布は売れ筋商品の一つ



これらのイベントで得た収益は、全てセネガルでの活動に使わせていただきます。ブースにお越しいただいたみなさま、イベント関係者の皆さま、ありがとうございました。

【セネガルでの活動】

2014年度のセネガルでの活動は、地域のセネガル人の若者たちや学校関係者と協力しながら行いました。まず彼らのニーズを聴取し、必要と判断した取り組みについて資金を送り、それを元に彼らが活動を実施しました。

1) ゴミリサイクルシステム構築プロジェクト

30代の若者を中心に2012年に結成された団体「RFAGEL(レファジェル)」は、セネガルで最もゴミの多い街と言われるカオラックで、ゴミ回収とリサイクルシステム構築のプロジェクトを実施しています。2013年、彼らはアメリカ大使館の支援を得て紙ゴミからブロックをつくる技術を習得しました。

そして2014年、実際にそのシステムを運営する計画を立て、私たちはゴミ回収の荷車をひくロバや、ゴミが最も多い市場に設置するためのゴミ箱、そして出来たブロックを販売するための登録料などについて支援をしました。その後、彼らはフランスの団体から事業運営のための助成金を得るチャンスを獲得し、現在、村落部の女性たちがこのブロック作りの技術を身につけ、収入を得ることができるように各地を回って説明会を行っているところです。



2) 鉛筆プロジェクト



文房具が不足しがちな村落部の学校に、鉛筆などの文房具を配布しました。鉛筆 645 本、ちいさなカバン、ファイル3つ、ノート6冊、ボールペン 75 本、その他のペン 84 本、消しゴム 40 個、ものさし8本、赤色鉛筆 25 本、これらを、セネガルの北部リングール県にあり4つの小学校に配布しました。子どもたちやその保護者

からは「とても助かります。ありがとう。」「遠くの町まで買いに行くことができなかったので助かりました。」と感謝の言葉をいただきました。

セネガルコラム2～セネガルの携帯事情～

もう私達の日常で手放せない生活の一部となっている携帯電話。いわゆる発展途上国と言われ、環境問題、貧困問題、などなど様々な問題を抱える国、セネガルではどのようなになっているのでしょうか。

実は、セネガルの多くの人達は、驚いたことに、携帯電話を1人で数台持っていて、その都度番号を使い分けていました。お金がないのに、どうしてそのようなことが可能なのでしょうか。その答えはズバリ、携帯本体の安さと、日本のような基本料金を伴う契約がないためです。

セネガルの市場などでは、安いもので1台3,000FCFA(約600円)ほどでSIMカード付きの携帯を手に入れることができます。そして、人500FCFA(約100円)から手に入れることができ、そのカードに書かれた番号を電話に入力することでその料金分のクレジットが電話に登録され、通話やSMSを使用することができるようになります。

セネガルには、Orange、Tigo、Expressoなどの5社がプリペイドカードを販売しており、カードを使うためには、各会社のSIMカードを使う必要があります。そして、各会社のカードには、プロモーション期間というものが存在し、そのプロモーションの間は購入したカードの2倍や3倍の料金のクレジットを登録することが可能になるのです。今週は、Orangeのプロモーション、来週はTigoのプロモーション、という風に違う時期にプロモーションがあるので、そのプロモーションを使い分けるために、多くの人は違う会社のSIMが入った携帯を数台持っているのです。携帯によっては、数枚違うSIMカードを1台の電話に入れることができるようになっているものもあり、プロモーションの度に、キャリアを変更することもできるようになっています。

付き合っている人によって電話番号を変えている、というような不埒な人も存在しますが、多くの人達は少しでも得するプロモーションを賢く利用するために数台持ちなのです。

また、セネガルでは、自分よりお金をもっている人に対して、いわゆる「ワン切り」を行うことで、自分のクレジットを使わずに通話を行おうとする文化があります。更に、相手に「電話をください」と無料でSMSを送ることができるシステムが存在しており、現地の人々のニーズに合わせてサービスを提供している携帯会社にも驚かされます。

セネガルも都会ではスマホの存在も目立ってきているようですが、田舎や村落部では携帯電話の多くは、まだ一昔前の白黒画面の手のひらサイズの携帯電話が主流です。村落部では電気が全く通っておらず人々は電気のある村や町まで携帯をチャージしに行くので、電池が長持ちする白黒ハンディ携帯のほうが便利なのでしょう。

どのような辺境にある村でも、人々が携帯電話で会話をしているのを見ると、驚くのと同時に、人といつも繋がっていたい人懐っこく寂しがり屋なセネガル人達がとても愛おしく思えました。(藤岡)



* 生地作り*

- ①ボールに、小麦粉、塩、ベーキングパウダー、卵を入れて、ざっくりとかき混ぜる。
- ②水を少しづつ加え、しっかり練りこみます。〔耳たぶより硬めが目安！〕
- ③一つにまとまって生地がしっかりしたら、少量の油をたらして、また練ります。
- ④丸くまとめてボールに戻し、表面に油を塗り、ふきんをかぶせて1時間ほど寝かせる。

* 具*

- ⑤ ★をすべてミキサーにかける。
- ⑥ 油を引いた鍋に⑤の★を入れ炒め、次に牛ひき肉を入れて火が通るまで炒める。
- ⑦ トマトペーストを入れ、さらに炒めたら、最後に酢を入れ火を止める。

* 生地器具を包む*

- ⑧ 台に粉をふり、適当に生地を分割して、2mmくらいの厚さで四角く均等に伸ばす。
- ⑨大きい四角に伸ばした生地を一枚CDくらいの大きさに切り分けます！
- ⑩生地の真ん中に具をのせて、好きなように包みます！
- ⑪中身が飛び出さないように、端はしっかりフォークを押し付けてとじます。
- ⑫180度の油にファタヤを入れて、キツネ色になるまで揚げたら出来上がり♪

セネガルコラム1～セネガルへの帰省～

私は今年の年明けにセネガルに帰省しました。2年ぶりのセネガル訪問に胸を膨らませながら、日本から丸一日以上かけてダカール空港に到着。飛行機からおりた瞬間、生温い風とともに「ああ、セネガルに着いたんだ。」と感じました。

首都から5時間かけて、昔住んでいた場所に着いた時は、故郷に帰ってきたようなつかい気持ちを感じました。嬉しさ反面、街の人たちは私の事を覚えているかなと不安もありました。しかし、彼らに会うと一気にそんな不安もなくなりました。彼らの反応は思った以上に、嬉しい反応でした。事前に彼らには、セネガルへ行く事を伝えていなかったの、私を見た瞬間は、目をまんまるにして大喜びをし、ハグをしてくれる人や最初の数分私がセネガルにいるはずがないと疑い続ける人もいました。大人も子供も少し照れ気味でハニカんでいるところが私にとって純粋に嬉しかったです。

以前住んでいた2年間では、彼らのそんな顔を見たことはなかったので、帰ってきてよかったという気持ちになりました。これまでに日本人が帰ってくることは、なかなかなかったので本当に嬉しいよと言ってくれました。セネガル人からすると私たちの「じゃあ、また来るね。」は、来るわけがないと思っているそうです。目の前にあるものしか信頼できないと言っていました。なので、私が帰って来たことにより、彼らの私に対する信頼は以前より、いっそう厚くなったように感じました。現地で活動を始めるのにも、とてもスムーズに事が運び、積極的に動いてくれました。

1回目は、ボランティアとして、2回目は、この団体のメンバーとして、セネガルに訪問する事は、全く別ものでした。彼らと初めて対等に話しができたと思います。セネガル人はとても気さくで優しく、明るいです。しかし、彼らはどこかに一線を引いているところがあります。それは、2、3日で築けるものではなく、時間、自分の行動、発言を含める全てをさらけ出してこそあるものかなと思います。価値観、金銭感覚、文化の違いなどありますが、自分の心を開いていくことの大切さを感じました。セネガルに出逢って4年目にして、やっと彼らに近づけたかなと思わせる旅でした。

3)水道プロジェクト

リンゲール県ダラ市ドゴン村のドゴン小学校に水道を設置しました。これまでこの小学校には水道がなく、子どもたちは家まで水を飲みに行くので授業が進まなかったり、トイレはあるけど水がないので使えなかったり、衛生的にもいろいろな問題が



あったため、このような子どもたちの学習環境を改善したいという先生たちの強い希望で実現しました。設置後、今では授業を中断することもなくなり、子どもたちからは「勉強も頑張ります！」という言葉ももらいました。



完成した水道。右の写真は完成後の祝賀会に Bokk Jambaar のメンバーが参加したときのもの。協力者の先生と。

3) 村落部の診療所に薬をプロジェクト

セネガルの特に村落部にある診療所では、医薬品や医療用具の十分な在庫を確保しておくだけの財力がないところが多く、診察は出来ても薬がないという状況はめずらしくないため、その結果、村落部に住む人々が必要な治療を受けられないという問題が生じています。そこで私

たちは活動協力者である教育省配属の視学官とともに解熱鎮痛剤、抗生物質、栄養剤、点滴、注射器、ゴム手袋等の医薬品や医療用具を購入し（日本円で約3万円分）、村の診療所に引き渡しました。



2014 年度決算報告

(2014 年 4 月～2015 年 3 月まで)

(単位:円)

科目	金額
I. 収益	499,843
1. 受取会費	53,000
本会員	50,000
賛助会員	3,000
2. 受取寄付金	233,700
受取寄付金	233,700
3. 事業収益	213,143
物品・食品販売	173,143
講師料	40,000
II. 事業費	301,829
1. 人件費	23,000
謝金	23,000
2. その他経費	278,829
広報費	4,615
消耗品費	37,837
イベント参加費	26,710
セネガル活動費	58,663
フェアトレード商品等 購入費	59,062
オリジナル商品製作費	67,200
セネガル送金手数料	8,430
旅費交通費	12,990
雑費	3,322

Bokk Jambaar ニュース 『山下てんせいさん、顧問に就任！』

神戸市会議員の山下てんせいです。このたび Bokk Jambaar の顧問として、活動の支援をさせていただく事になりました。現在神戸市会には韓国・中国・台湾・リガ(ベラルーシ)との友好議連があり、今後は東南アジア諸国やインドとの交流も図っていくものと思われます。しかし、アフリカ諸国はそういった対象になっておりません。「お付き合いが無いから。」言い換えれば、アフリカを知る人財がないということです。

私は Bokk Jambaar の願いである「ただお金のある国が貧しい国を支援するだけでなく、日本の良い所、セネガルの良い所をそれぞれお互いに取り入れて、両方の国をより良くしていきたい。」という理念に賛同し、またアフリカと日本の橋渡しができる存在として活動できたらと考え、参加させていただきたいと願いました。温かく仲間として迎え入れていただけたことに感謝し、様々な形で応援していきたいと思っております。

座右の銘: 先憂後楽(しんどいことは先にやっとうこう！)

シアワセと思う瞬間: 仕事でも祭りでも、一区切りついた時が一番幸せ。
Bokk Jambaar との馴れ初め: メンバーの藤岡さんに話を伺って知りました。また仕事柄、国際協力のありがたさという点に興味や問題意識を持っていましたので、協力させていただくようになりました。

国際協力で今後取り組みたいこと: ODA について、若いころは「お金出してるから十分！」と考えていましたが、実態はそうではないようです。どんな支援がほしいのかというリクエストに、真摯に答えられるのは、やはりマンパワーなのではないでしょうか。とりわけ私は、食料も限りある資源だと思っていますので、「みんなが満足な食事をとれる世界」をいかに実現するかということを皆さんと考えていきたいと思っています。



イベントでも大人気！ファタヤの作り方(4人分8個)

具

- * 牛肉 100g
- * ピーマン★ 12g
- * たまねぎ★ 12g
- * ニラ★ 1本
- * ニンニク★ 1カケ
- * パセリ きざんで小さじ1
- * トマトペースト 大さじ1
- * マギーブイヨン★1/3 個
- * 塩こしょう★ 少々

* 酢 5ml

* チリパウダーもしくは唐辛子 お好みで

皮

- * 小麦粉 80g
- * ベーキングパウダー 1.5g
- * 卵 3/1個
- * 塩 少々



→作り方は次ページ